

赤水の功績伝え30年

日立

高萩・顕彰会が記念式典

現在の高萩市出身で江戸時代の学者、長久保赤水(1717～1801年)の功績を伝える長久保赤水顕彰会(佐川春久会長)は23日、創立30周年を記念する式典を日立市十王町伊師の国民宿舎「鶴の岬」で開いた。

式典では、元東大教授の馬場章氏ら顧問や理事、会員の功労者計18人を表彰した。佐川会長は「100年後、200年後には江戸時代と同じように赤水の名が日本全国、世界にとどろくことを願う」とあいさつした。

赤水の生涯を描いた漫画(同会発行)の感想文コンクール表彰式も行われ、最優秀賞を受賞した県立日立一高3年、寺崎千尋さんらに表彰状が贈られた。寺崎さんは「赤

水先生は全てに対して真摯な姿勢を持っており、感銘を受けた」と語った。

来賓として大部勝規高萩市長、大内富夫同市教育長、赤水図を地理教育の教材に活用しようと取り組む日本大経済学部の下部勝彦教授が祝辞を述べた。

同会は1992年11月6日、赤水の誕生日に合わせ設立された。(小原瑛平)



功労者に対する表彰などが行われた、長久保赤水顕彰会創立30周年記念式典。日立市十王町伊師

赤水の生涯を描いた漫画(同会発行)の感想文コンクールの表彰式も行われ、最優秀賞を受賞した県立日立一高3年、寺崎千尋さんらに表彰状が贈られた。寺崎さんは「赤